

もんじょ紹介 No.25

終戦記念『写真週報』

～『写真週報』にみる戦時中における政府の広報宣伝～

○神林公明家旧蔵図書『写真週報』の特徴について

○第96号（昭和14年12月20日付）～第314号（同19年3月22日付）



須坂市文書館

神林公明家旧蔵図書『寫眞週報』の特徴について

- 1 この旧蔵図書『寫眞週報』は、市内神林公明家が所蔵していた写真誌です。

『寫眞週報』は、昭和13年(1938)2月16日に創刊され、アジア・太平洋戦争の最末期の昭和20年(1945)7月11日まで全370冊が刊行された日本国民向けのプロパガンダ誌です。創刊号から146号までが内閣情報部の編輯であり、147号以降が情報局編輯とあります。単なる組織替えです。

神林公明家では、このうち昭和14年12月20日発刊の96号から昭和19年3月22日314号までの212冊を所蔵していました(一部欠号有り)。創刊当初の号や終戦間近の号がないのが非常に残念ですが、これだけの冊数がまとまって残ることはたいへん珍しいことです。

- 2 『寫眞週報』について若干説明を加えたいと思います。

表紙は、目を引くように特徴的な写真を載せています。軍事一色にならないように女性や子供たち、海外の様子なども入れ親しみが沸くような工夫が見られます。もちろん、政治や軍事にかかわる写真も載せられています。アジア・太平洋戦争開戦後は軍事色が当然ながら色濃くなります。

内容については「新年號」、「海軍記念日」、「支那事變」、「紀元二千六百年」、「満洲國」、「食糧増産・街の鑛脈」、「都市防空」、「大東亜の建設」、「大東亜戦争」、「戦力増強」、「衣料・貯蓄」などの特集が組まれるようになっていきます。

とりわけ、「都市防空」については、まったく人命を無視した内容が書き載せられています。例えば、184号(昭和16年9月17日)の記事「空襲恐るるに足らず」では、以下のようにあります(一部抜粋、現代文に書き替え)。

空襲は決して恐るるに足りない。こういうわけは、わが日本の実力を以ってすれば、という前置きがあるからである。ロンドンや重慶のように空爆されることは絶対ない。

しかもわれわれには、いかに大量の敵空軍が来ようとも、自若としてこれを邀撃するに足る強力なる陸海空の精鋭があることを第一に忘れてはならない。

一身一家のことなどは顧みず、どうすれば犠牲を少なくするかという点に全力を集中して一致団結空爆と戦わなければならない。

しかし、アジア・太平洋戦争が勃発すると東京をはじめとして全国の都市が空襲されたことは事実です。地方の小都市の長野市・上田市なども昭和20年8月13日空襲されており、須坂市でも8月の終戦日間近には中町付近に「建物疎開」(強制取り壊し)の命令が出されたとされています。

＊『寫眞週報』表紙特集＊



96号(昭和14年12月20日)

甘酸っぱい新春の味覚! みかん。国策七分搗きのお鏡餅に乗っかれば、遥々海を越えて外貨獲得の尖兵を務める一みかんです。



97号(昭和15年1月3日 新年号)

紀元二千六百年を迎え、わが大日本帝国は東亜新秩序の建設に向って一段と飛躍すべきときである。



101号(昭和15年1月31日)

内閣総理大臣米内光政(海軍大将)。昭和12年2月の林内閣で海軍大臣。次いで近衛、平沼内閣でも、海軍大臣を歴任した。



129号(昭和15年8月14日)

赤道直下のスマトラ島。南洋の海はエメラルド色に澄み、強烈な陽は灼けつくよう。南洋の渚をタコの木は独占してその風を葉に鳴らしている。



149号(昭和16年1月1日 新年号)
中国の家庭の元旦の朝のようす。家族うちそろって
厨房に詣で、祖先の霊を拝したあと、美しくお供え
した飾り壇に祈る。



163号(昭和16年4月9日)
靖国の遺児。皇后から下賜されたお菓子を押し戴く
山梨県中巨摩郡源村のY君。父親は中支で戦死し、
母親も病死したため、祖父母と暮らす。



199号(昭和16年12月17日)
遂に火蓋は切られた。12月8日、アジア・太平洋戦争が
開始され、帝国海軍の精鋭艦隊を紹介する。
一億、今ぞ 敵は米英だ！



200号(昭和16年12月24日)
連合艦隊は太平洋上における米英の主力艦隊を「開戦
三日で撃滅した」と喧伝されたが、実際は奇襲による
損害だけで米英の主力艦の多くは温存されていた。
新鋭艦上戦闘機とあるが、零戦のようだ。



278号(昭和18年6月30日)
新聞紙一面に貼られた衣料切符。これで800点ある。
衣料切符の献納こそ、誰にでもできる一番やさしくて手近な報国の道だ。



314号(昭和19年3月22日)
陸軍造兵廠の挺身隊員は、「女ながらも戦っているという自覚。なんと誇らかな自覚でしょう」と言う。兵器は私たちが造りましょう
この号をもって、A3判8ページ建て(戦時版)へと変更される。

誌面特集



96号(昭和14年12月20日)
「精勤で暦を終る第三年」昭和12年7月7日、日中戦争(支那事变)勃発以来3年目を迎える街の様子をあらわす。「時節柄お互いにお歳暮は止めようじゃ御座いませんか、無駄で御座いますもの」など。



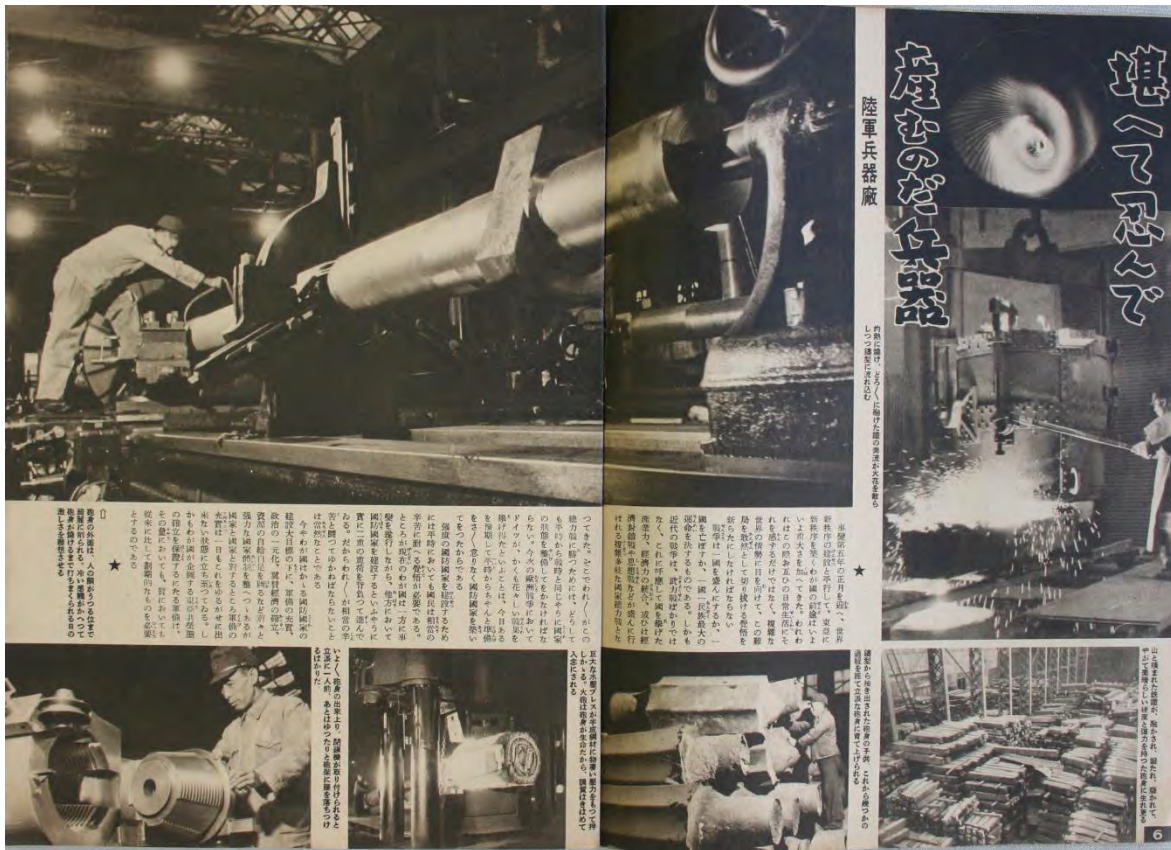
101号(昭和15年1月31日)
「慶祝 紀元二千六百年」満鉄鉄道総局の広告ページ。
表紙裏の一面を使って旅行などに国民の関心を向けようとしている。写真は「熱河承德忠霊塔」



128号(昭和15年8月7日 裏表紙)
「支那事変国債」支那事変(日中戦争)の戦費を賄うため、広く国民に国債を買うように求められた。買った債券は郵便局で預かるとされており、償還後は本人には渡らずそのまま貯蓄に回された。



129号(昭和15年8月14日)
「ぜいたくは敵だ! 8月1日興亜奉公日」軍備増強のため、国民生活に必要な物資は統制が強化された。東京では「華美な服装はつつしみましょう」「指輪はこれ際全廃しましょう」などの街頭宣伝がおこなわれた。



149号(昭和16年1月1日 新年号)

「堪へて忍んで産むのだ兵器 海軍兵器廠」日中戦争が5年目を迎え、いよいよ兵器の増産に力をそそいだ。大量の銃鉄から、砲身や砲弾が産まれる。この後8月30日、金属回収令が施行される。



163号(昭和16年4月9日)

「無駄なし、交換会」家庭生活を合理化して生活再建を図る大阪市の『市民生活新体制運動』のようす。新学期を迎える子供たちのために、小さくなった学生服、不用になったランドセル、運動用具、靴下、下着などが並んだ。



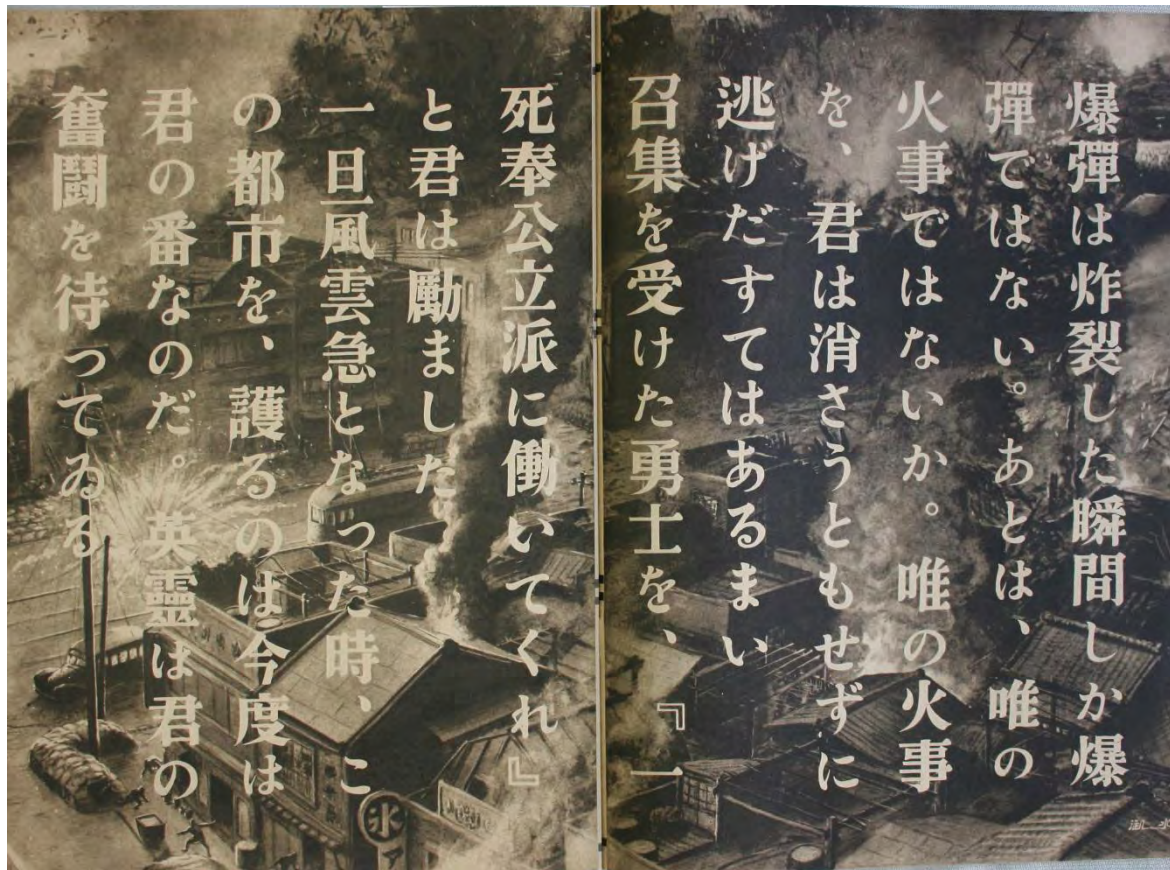
165号(昭和16年4月23日)
松岡外相を迎える ドイツ総統官邸のバルコニーに
並ぶ松岡外相。ヒトラー総統とともに現れ、日独の
国旗をかざして熱狂するベルリン市民にこたえた。
また、日章旗とハーケンクロイツ旗がはためく中、
ドイツ首脳とともに儀仗兵を閲兵した。



165号(昭和16年4月23日)
「掘り出せ街の鉱脈を」ドイツでも戦争遂行に必要な
金属資源の確保に並々ならぬ苦心をしている。金属回
収日のような、うしろのポスターには「私もヒトラー
総統を助けましょう」とある。また、イタリアやドイ
ツ占領下のパリ近郊でも屑鉄が集められた。日本でも
金属回収がおこなわれていく。



192号(昭和16年10月29日)
「靖国神社を参拝する昭和天皇」靖国神社臨時大祭の10月18日、昭和天皇は「護国の英霊に御親拝遊ばさる」とある。右ページが白紙なのは印刷ミスではなく、天皇の姿を汚しては不敬にあたるとする意味から。



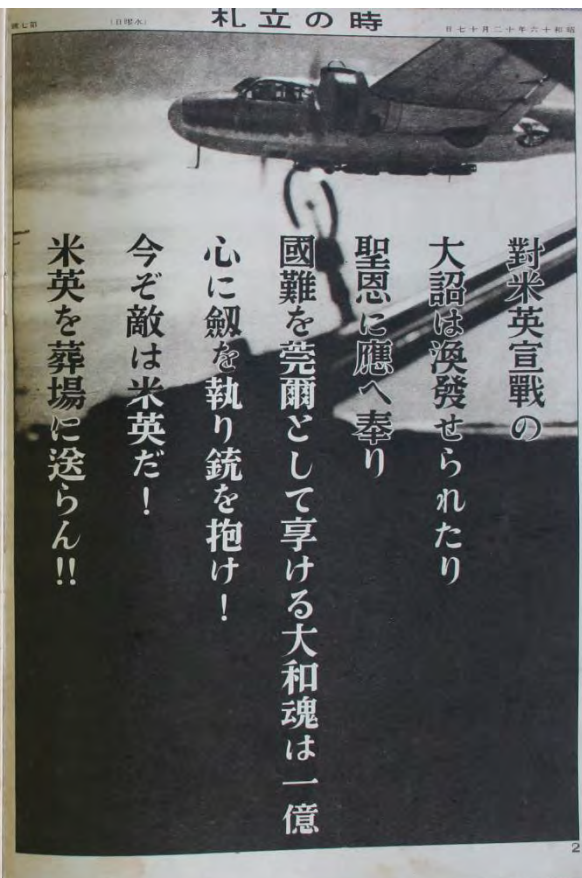
184号(昭和16年9月3日)

「特輯 都市防空」以下の文言はどのように当時の国民に映ったのだろうか?「爆弾は炸裂した瞬間しか爆弾ではない。あとは、ただの火事ではないか。ただの火事を、君は消さうともせずに逃げだす手はあるまい」。これでは、犠牲者が増大することは自明のことではあるが、こうして国民に犠牲を強いた。「防空壕を作るなら」(下)「防空七ツ道具」「空襲恐るるに足らず」などの記事も載る。





山本聯合艦隊司令長官鰐を率ゐて起つ

[illegible]

199号(昭和16年12月17日)

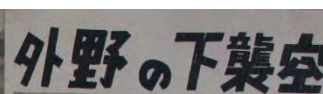
「連合艦隊司令長官山本五十六」米英に対する宣戦が布告された。太平洋を護る決死の艦隊を指揮する山本五十六海軍大将。万里の波濤を蹴立てて進む。



お茶を飲むのは、何時でも女性の題目です。非常の奇想、奇命を醸し、茶防衛に奮起する士たちの食事を、決して缺くやうにとつてはと、大正市南區福野婦人会の総務たちは、かねて茶防衛の下野に於ける簡品共炊茶法の研究に努めて來たこと、このほかにその常、同賞演と講習を同區連仁國民政校校庭で開きませう。

材料である、また茶に人手できるものを選び、また大切なる茶葉を失はぬよう調理すること、炊茶用具にも有るべき點があるもの、炊茶するなどが大きな特色になつてゐます。

總務 大坂市



☆の戦野 ☆
 ☆隊軍 ☆
 ☆法事 ☆

野戦の戦は、二、三の戦ひといふ。三、四の戦ひといふ。五、六の戦ひといふ。七、八の戦ひといふ。九、十の戦ひといふ。十一、十二の戦ひといふ。十三、十四の戦ひといふ。十五、十六の戦ひといふ。十七、十八の戦ひといふ。十九、二十の戦ひといふ。二十一、二十二の戦ひといふ。二十三、二十四の戦ひといふ。二十五、二十六の戦ひといふ。二十七、二十八の戦ひといふ。二十九、三十の戦ひといふ。三十一、三十二の戦ひといふ。三十三、三十四の戦ひといふ。三十五、三十六の戦ひといふ。三十七、三十八の戦ひといふ。三十九、四十の戦ひといふ。四十一、四十二の戦ひといふ。四十三、四十四の戦ひといふ。四十五、四十六の戦ひといふ。四十七、四十八の戦ひといふ。四十九、五十の戦ひといふ。五十一、五十二の戦ひといふ。五十三、五十四の戦ひといふ。五十五、五十六の戦ひといふ。五十七、五十八の戦ひといふ。五十九、六十の戦ひといふ。六十一、六十二の戦ひといふ。六十三、六十四の戦ひといふ。六十五、六十六の戦ひといふ。六十七、六十八の戦ひといふ。六十九、七十の戦ひといふ。七十一、七十二の戦ひといふ。七十三、七十四の戦ひといふ。七十五、七十六の戦ひといふ。七十七、七十八の戦ひといふ。七十九、八十の戦ひといふ。八十一、八十二の戦ひといふ。八十三、八十四の戦ひといふ。八十五、八十六の戦ひといふ。八十七、八十八の戦ひといふ。八十九、九十の戦ひといふ。九十一、九十二の戦ひといふ。九十三、九十四の戦ひといふ。九十五、九十六の戦ひといふ。九十七、九十八の戦ひといふ。九十九、百の戦ひといふ。



199号(昭和16年12月17日)

「空襲下の野外家庭料理」大阪市南区国防婦人会は、かねてから戦時下野外における簡易共同炊事法の研究をすすめて、今回第1回の実演講習会を道仁国民学校校庭で開いた。



200号(昭和16年12月24日)

「暁天を引裂くハワイ真珠湾攻撃」

従軍画家松添健によるハワイ真珠湾攻撃の絵。米戦艦オクラホマ、ウエストヴァージニア、アリゾナ、三隻轟沈とある。



249号(昭和17年12月2日)

「吾々は世界地図を塗り替えているのだ」アジア・太平洋戦争やヨーロッパ戦線で世界状況が変化し、枢軸国側と反枢軸国側(連合国)の版図が記されている。



255号 (昭和18年1月20日)

「敵機は虎視眈々とわが本土を窺っている」米軍機の本土爆撃が始まり、アリューシャン・ダッチハーバーやミッドウェイ島、中国桂林からの爆撃が可能となった。昭和17年4月18日、日本本土（東京・横浜・名古屋・大阪）が初空襲された。いわゆるドーリットル空襲。



276号 (昭和18年6月16日)

「ガダルカナル・アッツの玉砕 山本元帥の国葬」山本五十六連合艦隊司令長官の国葬（昭和18年4月18日ブーゲンビル島南で戦死）が、同年6月5日、日比谷公園葬儀場で執り行われた。山本元帥の国葬の前の5月29日には、アッツ島守備隊全将兵が玉砕した。「玉砕」という言葉は「玉が美しく碎けるように、名誉や忠義を重んじて潔く死ぬこと」とあり、この後「玉砕」はさかんに使われるようになる。

A black and white photograph of three young women in school uniforms. The woman in the foreground is seated at a desk, writing on a piece of paper with a brush. Two other women stand behind her, looking on. The paper has Chinese characters written on it.

新税の増であるものに合はせ、衣料切替を献納しよう。これは國々の體にても出来る「善易い」義國の道だ。現に昨年衣料切替發行の約三十五分は用立てゝなかつたといはれる。また、一貼につき一圓四角八十銭の、二十貼は使へる。つてゐなかつたこととなつて、また、一貼につき一圓入り現金消納額を國に五貼として、使はるゝに二十貼を納付するは、一貼につき一圓四角八十銭の國貨に、一貼につき一圓の國貨・債券の消化となり、作らぬに約出するは、それを充てたるは十圓の國貨・債券の消化となり、作らぬに約出するは、それを充てたるは、戦力の増進する。二十貼とへば、和服の襟袷、名古屋簪、ワンピース、胸当て各一枚約銀二本、フラスコへば、結上り衣、衣料切替のつぎまで使へ、更生してゐなければ、こんなに大なる公益が出る。衣料切替を上手に使ふことは終た、使はないと云ふのだ。さう、學つて衣料切替を献納しよう。

大日本郵船會社東京支店
支店の衣料は年々増加し、
十指三千圓の五十六六十六
に三萬三千五百六十六圓
なつた。

全船被納の一人、奥島まさ
子さんは「安部先生は、新
調したものを手に入れたに
喜ぶた右左」

「切替被納したるでお禮を
いはれては、かへつてお服
をいはいで、さうしてさ
と銀座で成子様をしさ

御國のために、清けりた
年頃の女學生さんで、被
納した。大妻高等女學校
徒の一万四千五百五十五點生

「衣料切符を献納しよう」使わない20点を献納すれば一人で10円の節約ができるとあるが、実際は使いたくても配給衣料が少なすぎて使えないのが実情であった。座布団を献納して「コットン爆弾」を造るという強制すら行われた。

- 一 私達は「御國を守る戦士」です命を投げ出して持場を守ります
- 一 私達は必勝の信念を持つて最後まで戦ひ抜きます
- 一 私達は準備を完全に自信のつくまで訓練を積みます
- 一 私達は命令に服従し勝手な行動を慎みます
- 一 私達は互に扶け合い力を協せて防空に當ります

「敵機はたえず皇土を狙っている」時局防空必携が改定され、『寫真週報』による徹底が図られた。だが、こんなもので本当に焼夷弾が消えると思うのだろうか？「どんな焼夷弾でも、水を周囲の燃えやすいものにかけて延焼を防止することが第一である」と。



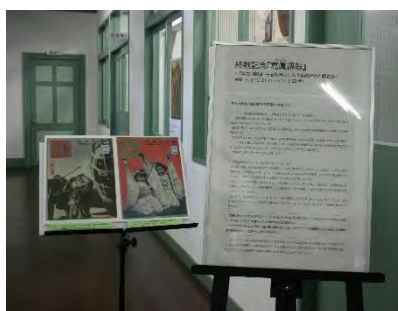
300号(昭和18年12月8日)

「生活を切りかえて戦力を生もう」「一億みんなで飛行機を造るのだ」暖房廃止で飛行機8万台。家庭内職で魚雷5万発。10銭ニッケル回収で戦艦2隻。1坪農園で戦車1万5千台。いずれも掛け声はすごいが国民にはその余力はもうなかった。

展示風景

『寫眞週報』展

寫眞週報展は2021年(令和3)8月10日~10月8日の会期で開催し、特徴的なページの複製70点を展示しました。
「もんじょ紹介No25」では、この中から更に当時の世情が読み取れるものなど33点を掲載しています。





- ◆お車で：上信越自動車道 須坂長野東ICより約5km(車で約10分)
無料駐車場 30台
- ◆電車で：長野電鉄須坂駅下車徒歩約15分

もんじょ紹介 No.25

=====

発行 2022(令和4)年7月 須坂市文書館

須坂市大字須坂 812 番地 2

(旧上高井郡役所内)

電 話 026-285-9041

F A X 026-285-9175

E-mail bunshokan@city.suzaka.nagano.jp

=====